

タイトル: 日本とベトナムの環境に考慮する物の違い

会社名: 向井建設株 氏名: ホアンクオックトゥアン

出身国: ベトナム

皆さん、こんにちは

私はベトナムから来たホアン。クオック、トウアンと申します。向井建設で実習生三号として働いています。2016年から家族と離れ、海外へ出稼ぎに出た私には、今まで見慣れない事がたくさんあり、特に関心を持ったのは環境への取り組みです。

日本に来て、環境にやさしい物がたくさんあると気がつきました。一番印象に残った物はトイレ用紙です。初めて日本のトイレを使ったのは成田空港でのトイレでした。「ここトイレはきれいな」と思い、入ってみると「あ、使ったペーパーはどうしよう」と迷いましたが、分からぬのでそのまま便器に流しました。空港まで迎えに来ていた先生に聞いて、「大丈夫、ちゃんと溶けるから」と聞き、安心しました。その時は、「日本、すごいな」としても驚きました。ベトナムではトイレにはいつも便器の近くにゴミ箱があり、使い終わりにペーパーを必ずゴミ箱に

TODA MIRAI FOUNDATION



タイトル: 日本とベトナムの環境に考慮する物の違い

会社名: 向井建設株 氏名: ホアソクオク トゥアン

出身国: ベトナム

入れて、処理します。汚いと思うかもしれませんが、田舎や地方、貧乏なところでは、まだ日本のポッドントイレを使い、古い紙、新聞紙で拭いたりするのが現実です。日本のトイレットペーパーの話に戻りますが、溶けるトイレットペーパーを利用することはゴミ量を減らせるだけでなく、燃やすための燃料、排気も削減できます。ベトナムではまだ水に溶けなトイレットペーパーを使うので、汚い所もあり、処理する手間もかかります。これは日本を見習い改善すべき所だと思います。

ところで、最近私が働いている現場の近くには水素スタンドがありました。一緒に仕事をしている日本人に聞いてみると、最近はガソリンの代わりに水素を使うバスと車が増えているようです。どこの国でも学生時代に教わったと思いますが、通常の化石燃料を使うと、二酸化炭素が発生します。これは地球温暖化の一つの原因だと言われています。しかし、水素を使えば、水で排気され、汚染に繋が



タイトル: 日本とベトナムの環境に考慮する物の違い

会社名: 向井建設株 氏名: ホアンクオックトゥアン

出身国: ベトナム

らないのです。私の国では、こういう燃料はまだ導入されていません。あるのは電気エンジンです。電気エンジンは排量を減らせるがバッテリーの処理が大変です。それに、主なのは自転車で、車はまだ数が少ない。あと気になっているのが日本のお弁当ボックスがほとんどプラスチックを使っている事です。どんプラスチックの種類を使っているか分かりませんが、ベトナムではバナナの葉っぱやサトウキビの繊維で作られたボックス、バンブーのストロー等を使っています。この点ではベトナムの方が優れていると思います。

世界では、環境問題は地球の問題なので、どこでも環境に考慮するものを導入しています。私からも買い物をする時に、ビニル袋ではなく、自分のカバンを使って、ゴミを減らすように持っています。きれいな地球にする為に一緒に頑張りましょう。